

いよいよ新年度が始まりました。新しい環境になりましたが、子どもたちはワクワクした表情を見せています。今年度も「子育てつうしん」を毎月発行し、子どもに関する様々なことを紹介していきます。

《人の気持ちがわかる子に…》

子どもが大きくなったら「こんな大人になってほしい…」という願いがあると思います。その中でも「思いやりのある子に育ってほしい。」と思う保護者の方は多いのではないのでしょうか。今回は子どもの「相手の気持ちを推察する力」について書いています。

《相手の気持ちがわかるのはいつ頃？》

人の気持ちが分かるようになるのは、4歳ごろからと言われています。そのため、3歳以下の子どもには「相手の気持ちを考えて！」という言葉は通じないと考えることができます。発達には個人差があるため、必ず4歳というわけではありません。しかし、他者の行動を予測したり、理解したりする「心の理論」について知っていることで、なぜ人の気持ちが分からないのかという悩みが軽くなるかも知れません。

《どうすれば分かるようになる…？》

3歳までは分からないからといって、子どもに伝えなくてもいいというわけではありません。なぜダメなのか、相手がどんな気持ちになるかなどを分かりやすい言葉で、繰り返し伝えることが大切です。また、「心の理論」が育ち始める4歳～6歳頃に重要な意味を持つのが自発性です。例えば、ブロックを使って友達と一緒に何かを作るなど、何かの目的を達成するために、他人と協力して物事に取り組むことが大切になってきます。このような子ども同士の間で、互いの主張が食い違う場面が出てきます。その経験から「自分とは違う考えを持つ人がいる」ことに気付くことができます。

大人が介入しすぎず、程よい距離感で見守り、子どもの自発的な行動を尊重することが大切です♡

春のあそび ～たんぽぽままと～

たんぽぽに触れることで、茎が折れるときの音やがく片をとると花びらがバラバラになることなど、様々な気づきがあります。また、茎や花びらをきれいに並べることで美しさを楽しんだり、水に花びらを浮かべることを楽しんだりする子どももいるでしょう。他にも葉っぱや花びらの数を数えるなど、学びにも繋がります。

春の絵本「たんぽぽはたんぽぽ／おくはらゆめ」

たろうくんが遊んでいると、すずめやありんこが登場し、「たんぽぽは たんぽぽ…」と「ありんこはありんこ…」愉快的な声のリレーが始まります。その繰り返しのことが楽しくなります。青空を眺めながら小さな命がすべて愛しく感じるかわいらしい絵本です。ぜひ読んでみてください。



ひばり保育園では、毎週月曜日と水曜日に園開放を行っています。
子どもに関するご相談がありましたら、お気軽にご利用ください。